

市民主権のための活動

アロイスウス・ピトノ・アディ 新ジャカルタボランティア運動議長
(2016年2月27-28日に京都で開かれるAWC会議での経験交流の場で)

はじめに

ジャカルタの貧しい人々の大まかな状況と、私たち「新ジャカルタボランティア運動」がその状況をどう変えようとしているのかについて説明することがこの文章の目的だ。

ジャカルタはジャワ島にある。人口はほぼ1200万人で、面積は660,52 km²だ。その人口の3.6% (36万人) が貧しい人々だ。彼らには自分の家がない。ジャカルタ周辺に点在するスラムにある、月契約もしくは年契約で衛生状態が悪くて狭い家に住んでいる。

スラム街は、川べり、街中のオフィスビルの裏、昔ながらの市場、鉄道沿い、高級住宅街に隣接するなどいろいろな場所にある。

貧しい人々の職業は多種多様だ。街頭の物売りといった自営業、建設労働者、バイクタクシーの運転手、公共交通の運転手、家政婦、清掃労働者、低賃金の性産業労働者、警備員、修理工、街角の歌い手、駐車場係員、クリーニング屋などだ。

ジャカルタの住民としての身分証を持っていない人が多い。他地域から来て、ジャカルタで生活の糧を得ているのだ。西ジャワ、バンテン州といったジャワから遠くないところから来た人もいるが、中央ジャワ、東ジャワ、ジャワ島以外の島といった遠い地域から来た人もいる。

1日の稼ぎはおおよそ25,000~50,000ルピア (200-400円、2-4米ドル)。貯金をしたり、子供の授業料、医療費を払ったりするのは厳しい。家賃を払ってご飯を食べるのがやっとだ。

主な問題

ジャカルタの貧しい住民が直面している主な問題は次の通りだ。

1. 良質の教育・医療を受けるのが困難
2. 衛生と生活条件が非常によろしくない
3. 質が良く健康的な家になかなか住めない
4. 問題を解決しようと思う気持ちを表したり行動したりするための場所がない

これまでも様々な組織がこうした問題を解決しようと、Caritativeプログラムと緊急計画から、本質的で根本的な変革をなすための宣伝と行動にいたるまで試みられている。具体的には、思想と実践を生み出す技術と能力を総合的に結び付ける代案教育などの試みだ。

新ジャカルタボランティア運動(Relawan Penggerak Jakarta Baru/RPJB)

2012年はジャカルタの住民にとって大切な年になった。ジャカルタ知事選挙があったのだ。この時、世間の注目を集めた知事候補がいた。それは、(やせぎすで全くイケメンではない) 彼の身なりのためではなく、中央ジャワにある中堅都市・ソロ市の市長時代の実績ゆえだ。ソロ市で

根本的な変革を成し遂げ、人々に最良のサービスを届けることに成功したと評価されている。こうした実績のおかげで、彼はジャカルタ知事に立候補できた。

彼はジョコ・ウィドドまたはジョコウィ。ご存知の通り、今のインドネシア大統領だ（任期5年）。新ジャカルタボランティア運動(RPJB)はほかの組織とともに彼に投票するようジャカルタ市民に一生懸命訴えた。いろいろなジャカルタ市民が集まって RPJB が成り立っている。主婦、社会運動活動家、芸術家、研究者、ジャーナリスト、歴史家。RPJB に上部団体はなく、いかなる政党とも関係を持っていない。

変わりゆく都市

知事当時のジョコウィと副知事のバスキ・チャハジャ・プルナマ（もしくはアホク。現ジャカルタ知事）はジャカルタ市民に指導者の新基準をもたらした。その新基準とは、いろいろあるが特に、清潔な行政と住民への良質のサービスだ。ジョコウィとアホクは、貧しい市民が以前はなかなか享受できなかった健康と教育のサービスを受けるための解決策を実行した。ジャカルタ健康カードとジャカルタ・スマートカードで、ジャカルタの貧しい人々も家族全員が今では簡単に教育と医療のサービスを受けられる。

ジョコウィとアホクはこうした施策によって官僚のあり方も変えている。公共サービス担当の公務員は役所の内装と仕事の仕方を変えたので、必要なサービスを容易に受けられるようになった。州予算の立案と執行の透明性を高めた。E 予算計画を提供することで、市民がインターネットで州予算を容易に確認できる。

二人はまた、ルラからカマートに至る全ての職位の官僚を公開募集している。ルラとはジャカルタの官僚の最下位の地位で、カマートは地域の最高職だ。怠惰、規律を守らない、腐敗している公務員は厳しく罰せられる。制裁は、異動から降格、解職、投獄にいたるまでだ。

基本的にジャカルタ州政府は今、公共サービス精神の新たな段階に入っている。しかし、ジャカルタは今も非常に複雑な問題を抱えている。上記の2・3・4番の問題は、貧しい人々の期待と解決からは程遠い。だからこそ、私たち RPJB はこうした問題に取り組んでいる。

RPJB の主な活動

2012年にジョコウィとアホクの勝利に成功した後も、RPJB はジャカルタ市民とともに活動し続けている。主に焦点を当てている取り組みは、健康・教育サービスと、民衆主権のために人々が参加する計画を強化することを訴えることだ。

この推進活動は、健康・教育サービスが民衆、特に貧困家庭に常に向けられたものにすることに主眼を置いている。この活動はまた、こうしたサービスが、男性・女性・子ども・青少年・お年寄り・障害者といった人たちのいろいろな必要性にすべて対応できるものにしていくことも目指している。

この活動はさらに、人々の参加を促すものでもある。この中で大切な要素は、人々が情報の扱い方に慣れるようにすることと、日々の生活に影響する問題をジャカルタの人たちがより深く理解できるようにすることだ。人々の参加を促すことは、今ある参加方法を使うこととともに、別の方法を作り出していることと深く結びついている。

訴えかけと人々の参加は硬貨の裏と表の関係だ。民衆主権をもたらすために必要とされる二つの活動の中身だ。

私たちが現在行っている活動は次の通り。

1. 訴えかけ。健康・教育サービスの権利を得るために助けの要る人たちを支援している。ジャカルタ健康カードが初めて施行された当時、事態は混沌としていた。一方では、集落内の地域健康センターが医療サービスを求めた大勢の人々で一杯になった。医療関係職員は群衆に圧倒され、仕事量が劇的に増えたので不満を口にした。他方では、ジャカルタ住民の特に貧しい人々が、軽い症状だったり、家にしばらくいても大丈夫であったりしても地域健康センターに直ぐ様行かなければならないと感じた。これは、長年にわたって良質で無料の健康サービスを待ち望んでいた貧しい人々の一種の期待の爆発だ。健康サービス制度は次第に良くなっている。そして、それとともに私たちに寄せられる不満は現在減っている。
2. 集落単位で私たちが行っているほかの活動は地域会議だ。この会議は、ごみや衛生の問題から、ジャカルタ・スマートカード、身分証など公共サービスに対する不満の受付まで、地域の問題について知恵を集めることが目的だ。今ではこの会議を、ジャカルタ州予算の収支を学び教えることにも使っている。この取り組みの目的は、ジャカルタの予算、特に自分の身の回りに関する予算を下から立案して管理することに住民が実際に関わる上で必要な参加方法の人々に知らせることだ。
3. 身の回りの社会的問題を調査する実践。問題を明確化して調査を実施するまで近隣の人々にしてもらい調査を実施した。昨年、Ciliwung 川沿いに住む人々の生活に関する調査を行った。Ciliwung はジャカルタ最大の河川だ。Ciliwung の状況は長い間悪いままだ。家庭と工場の排水、ごみ量の増加、人間の占拠によって次第に河川自体が縮小していることが原因だ。現在、状況は良くなっている。この調査活動から、ボランティアに興味を持った若者たちのグループが私たちの組織の中に生まれ、Ciliwung 川を守るよう岸辺に住む人々を説得する活動を行っている。
4. 民衆の文化生活を支援する活動も行っている。芸術家や地元の文化団体と協力している。文化的な地域生活は社会変革にとって積極的な考えと価値観をより豊かにするはずだ。

終わりに

経験から言って、民衆主権を創造するうえで最も難しいのは、活動を維持することだ。私たちの戦略の一つは、全ての取り組みにおいて自己完結の方法を鍛えることだ。それゆえ、私たちの取り組みの範囲は常に自分たちの能力と条件に沿っている。しかし、同じ考えを持つ政党との協力する用意もある。

自己完結の方法は、今日のインドネシア民衆の主要課題、すなわち、政治的主権、経済的自律性、インドネシア文化の独自性の保持を実現することに関わろうとする人々と共にする努力だ。
